

AAS NEWS (Vol. 57)

発行日 令和5年12月30日 (年2回発行)

2023 ネパール出張調査 香港編

5月25日から6月3日までのネパール出張報告(その2)です。前回のシンガポール航空便はカトマンズ代理店のネパール人の不可解な対応で苦勞し、最終的にシンガポール本社に直接メールを出して解決したのですが、その時の悔しい気持ちが収まらず、今回はキャセイ航空を選びました。同航空は中部便の再開に合わせて4月とした予約の変更は問題なく出来るはずが…。ネット予約時に氏名をアルファベットで逆順に入力したミスがあり、結局キャンセル扱い。万全を期して国内旅行代理店扱いの予約とした甲斐もなく、キャンセル料金を取られてしまいました(個人負担)。トホホ…。その結果、一ヶ月遅れの出発便と相成ったのでした。今回、同行者がいなくて迷惑をかける心配がなかったことが幸いでした。

さて、キャセイ航空ネパール便は香港を経由しますが、行きは一泊、帰りは4時間待ち、という少しハードで低コストな航空券です。行きのほぼ一日空いた時間に「世界博覧館」を訪問しました。5月26日(金)12:00~16:00 香港国際空港の隣、アジア世界博覧館駅会場です。

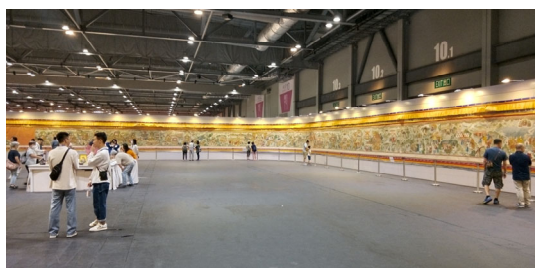
[香港 MTR]カトマンズ便の待ち時間が一日フルにあったので、最新モビリティである香港MTRに乗って空港島の奥にある世界博覧館に向かいました。MTRは市内を山手線のように張り巡らせ、空港島に接続されています。観光客路線と市民路線で料金設定が違うことが前夜の乗車で分かったので、自力で市民路線を乗り継ぎ空港島に行くルートを探りました。これで千円ほど交通費を浮かせることが出来たのは、自分を褒めてあげたい。但しタッチパネルの新式券売機には手こずりました。

[世界博覧館]MTRの車内広告にも案内があり、空いた時間を使うには絶好の場所と思い、空港島の終点駅の長いホームを歩きました。広く明るい通路は海側にワイドな窓が連続して、近くに造成工事中の大型建設機械、香港本土との間の海に浮かんだ船舶が見える景色を見ながら5分ほど歩くと、改札エリアの向こうに「世界博覧館」入口がありました。ここから案内嬢が話しかけてきますが、英語はあまり通じず、別の男性担当官に代わりますが詳しくは理解できません。常設の企画展示館のような説明で、入場料無料ということなので入館しました。



改札フロアからエスカレーターで下降した地上階に広大な展示場がありました。改札からの人の流れの多くは同フロアの飲食街までで、博覧館へは少ない。航空機の格納施設と思われる空間を利用して多数のブースを開設しています。アジア…と銘打っていないながらアフリカ諸国のブースも目立ちます。日本ブースはありません。政治的なスローガンの展示物や看板も目立ちます。

[コスト優先] アジア世界博覧館への香港市民の参加が本土の思惑とうらはらなのか、入場者はまばら。展示ブースには団体名が多く、長大なチベット曼荼羅や中国風水画は商談中でありました。大規模な展示場は親アジアというよりは中華文化展示館という感想でした。会場内の弁当は2千円以上でびっくり。浮かせた電車代が帳消しです。入館者や係員たちはクーポンを利用し気楽に食べている。



次回はシンガポール航空便に戻して宿泊しない予定です。「コスト」最優先は終わります。

15年前のAASNEWSVol.27巻頭記事を再掲載します。

「文藝春秋」('91.1特集・私がいちばん泣いた話)に掲載された、故吉田直哉氏(元NHK主幹)のエッセイ。チェトリの少年の実直な行動に、読み返して胸が詰まります。

ネパールのビール 吉田直哉

4年も前のことだから、正確には「ちかごろ」ではないのだが、私にとっては、昨日の出来事よりずっと新鮮な話なのである。昭和60年の夏、私は撮影のためにヒマラヤの麓、ネパールのドラカという村に十日あまり滞在していた。海拔1,500メートルの斜面に、家々が散在して、はりつくように広がっている村で、電気、水道、ガスといった、いわゆる現代のライフラインはいっさい来ていない。4,500の人口があるのに、自動車はもちろん、車輪のある装置で他の集落と往来できる道がないのだ。

しかも、二本の足で歩くしかない凸凹の山道をいたるところで谷川のような急流が寸断している。そこにさしかかったら岩から岩へ、命がけで跳ばなければならないのだ。手押し車も使えないから、村人たちは体力の限界まで荷を背負ってその一本の道を歩む。だから、茂みが動いているのかと驚いてよく見ると、下で小さな足が動いていたりするのだ。燃料にするトウモロコシの葉の山を、幼い子供が運んでゆくのである。

昔日本でも、村の共有地である入会山で柴を刈るときは、馬車で持って帰ることなど禁じられていた。自分の体で背負えるだけしか刈ってはいけない。自分が背負える分量だけ刈るのなら、お天道様に許される、という思想があったのである。時代は違うが、車を転がせる道がないおかげで、ドラカ村の人びとは結果的に環境保護にもかない、お天道様にも許される生活をしているわけだ。

—中略— 私たちにしても車が使えないここでの撮影は毎瞬が重装備の登山なのだ。車でこられる最終地点から村までは、15人もポーターを雇って機材や食糧を運んだのだが、余分なものをいっさい割愛せざるを得なかった。まっさきに諦めたのがビールである。なにより、重い。アルコールとしてなら、ウイスキーのほうが効率的だ。それを6本、一人1本半ぶんずつもてば、4人で10日間なんとかなるはずだ、という計算で諦めた。しかし、ウイスキーとビールとでは、その役割がちがうのである。大汗をかいて1日の撮影が終わったとき、目の前に清冽な小川が流れているので思わず言った。「ああ、これでビールを冷やして飲んだら、うまいだろうなあ」と。

スタッフ全員で協議した末に諦めたビールのことを、いまさら言うのはルール違反である。しかし、私が口にしたその禁句を聞きとがめたのは、私の同僚ではなくて、村の少年チェトリ君であった。

「いま、この人は何と言ったのか」

と通訳にきき、意味がわかると目を輝かして言った。

「ビールがほしいなら、ぼくが買ってきてあげる」

「・・・どこへ行って？」

「チャリコット」

—チャリコットは私たちが車を捨ててポーターを雇った峠の拠点である。トラックの来る最終地点なので、むろんビールはある。峠の茶屋の棚に何本かびんが並んでいるのを、来るときに眼の隅でみた。でも、チャリコットまでは大人の脚でも1時間半はかかるのである。

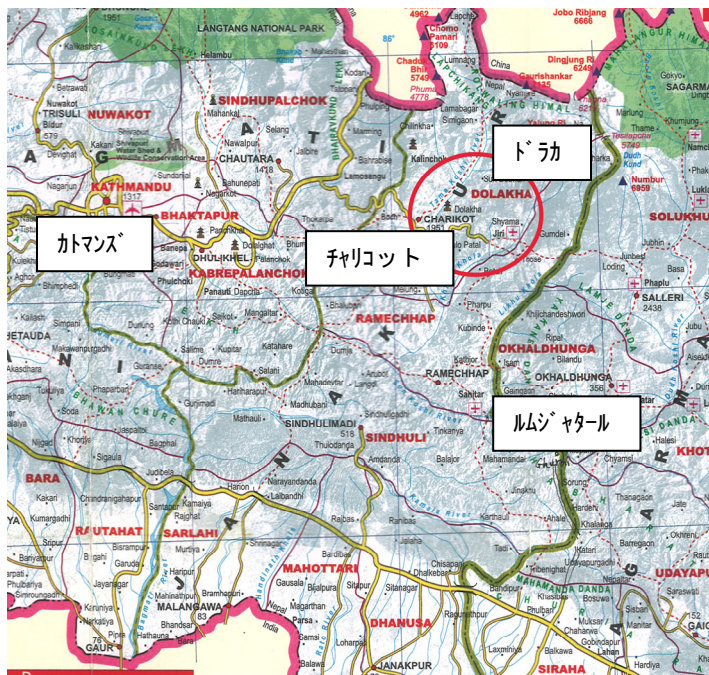
「遠いじゃないか」

「だいじょうぶ。まっ暗にならないうちに帰ってくる」

ものすごい勢いで請けあうので、サブザックとお金を渡して頼んだ。じゃ、大変だけど、できたら4本買ってきてくれ、と。

張りきってとび出して行ったチェトリ君は、8時ごろ5本のビールを背負って帰ってきた。私たちの拍手に迎えられて。

—次の日の昼すぎ、撮影現場の見物にやってきたチェトリ君が、「今日はビールはいらないのか」と



聞く。前夜のあの冷えたビールの味がよみがえる。

「要らないことはないけど、大変じゃないか」

「だいじょうぶ。今日は土曜でもう学校はないし、あしたは休みだし、イスタルをたくさん買ってあげる」

STAR というラベルのネパールのビールを、現地の人びとは「イスタル」と発音する。嬉しくなつて、きのうよりおおきなザックと1ダースぶん以上のビールが買えるお金を渡した。チェトリ君は、きのう以上に張りきって飛び出して行った。

ところが夜になつても帰ってこないのである。夜中ちかくなつても音沙汰ない。事故ではないだろうか、と村人に相談すると、「そんな大金をあずけたのなら、逃げたのだ」と口をそろえて言うのである。それだけの金があったら、親のところへ帰ってから首都のカトマンズへだつて行ける。きっとそうしたのだ、と。15歳になるチェトリ君は、一つ山を越えたところにあるもっと小さな村からこの村に来て、下宿して学校に通っている。土間の上にムシロ敷きのベッドを置いただけの、彼の下宿を撮影し話をきいたので、事情はよく知っている。その土間で朝晩チェトリは、ダミアとジラという香辛料をトウガラシと混ぜて石の間にはさんですり、野菜といっしょに煮て一種のカレーにしたものを、飯にかけて食べながらよく勉強している。暗い土間なので、昼も小さな石油ランプをつけてベッドのうえに腹ばいになって勉強している。

そのチェトリが、帰ってこないのである。学校へ行って先生に事情を説明し、謝り、対策を相談したら、先生までが「心配することはない。事故なんかじゃない。それだけの金を持ったのだから、逃げたのだろう」と言うのである。

一歯ぎしりするほど後悔した。ついうっかり日本の感覚で、ネパールの子どもにとっては信じられない大金を渡してしまった。そして、あんない子の一生を狂わした。でも、やはり事故ではなからうかと思う。しかし、そうだったら、最悪なのである。いても立ってもいられない気持ちで過ごした三日目の深夜、宿舎の戸が烈しくノックされた。すわ、最悪の凶報か、と戸をあけるとそこにチェトリが立っていたのである。泥まみれでヨレヨレの格好であった。3本しかチャリコットにビールがなかったで、山を4つも越した別の峠まで行ったという。合計10本買ったのだけど、ころんで3本割ってしまった、とべそをかきながらその破片を全部出してみせ、そしてつり銭を出した。彼の肩を抱いて、私は泣いた。ちかごろあんなに泣いたことはない。

そしてあんなに深く、いろいろ反省したこともない。

【地方展開】

ネパールでは、首都カトマンズやポカラなどの都市周辺より地方部・山間部の所得が格段に低い。これは国民の9割以上が農業に携わっていて、ほぼ自給自足の山間部の農家には現金収入の機会が少ないからである。親は子を学校に通わせたいと思うが、しかし畑や水田で子の労働力が必要だ。下の子の世話や家事の手伝いが欲しい。したがって、生活に追われる日々に流され、子どもに高い教育を受けさせることは困難なのである。



家族が力を合わせ、身を粉にして働いて、子どもを隣町の中学校に行かせることができる。その一生懸命がんばっている親と子に、AASを知らせたい。月千円が、彼らの夢をつなぐ。

受給中の奨学生は皆そろって、面接時の表情が明るい。AASの千円が有効に使われているという手ごたえを感じる。一方、これからの奨学生候補の生徒たちは、面接で言葉がなかなかでてこないほど緊張し、こわばった顔をしている。この奨学金が自分の進級・進学を決めるかもしれないのだから。彼らの暮らしの中で月千円の奨学金が役立つのだと感じる瞬間である。

受給後の生徒たちの輝く笑顔に会いたくて毎年日本から訪問する。推薦された生徒全員に支給したいが、AASが給付型奨学金であることから奨学生候補は多く、やはり学力を基準に選別することになる。

地方展開を目指して東のジリ、ルムジャタール、そして西のトゥルシプールなどの拠点を数年のローテーションで回っている。しかし、1週間程度の滞在で訪問できる場所は限られることや、豪雨災害や地震、石油危機など道路アクセス障害も有り、近年はカトマンズやポカラ近郊の生徒の割合が増えている。今後は地方展開へ航空便の活用等軌道修正が必要とされる。

AICHI ASIA SCHOLARSHIP 2023
STUDENTS REMITTANCE CHECK LIST: (2023.12.1支給)

番号	氏名		写真	クラス	支給額 円	住所(address) 電話(contact No.)
	生徒名	氏名				
1	生徒名	Bhim Bahadur Garanja: ビムバハドゥール・ガランジャ		10	9000	
	学校所在地	カウシヤルタール				
2	生徒名	Prabin Pariyar: プラビン・パリヤール		8	6600	
	学校所在地	ボカラ				
3	生徒名	Pratima Tamang: プラティマ・タンガム		10	9000	
	学校所在地	ボカラ				
4	生徒名	Nima Dangal: ニマ・ダンガール	No photo	7	6000	
	学校所在地	トゥルンブール				
5	生徒名	Sahara Pariyar: サハラ・パリヤール	No photo	8	6600	
	学校所在地	トゥルンブール				
6	生徒名	Sahita Budhapa: サヒタ・ブドゥパ		8	6600	
	学校所在地	(カトマンズ)				
7	生徒名	Rashmi Ramtal: ラッシュミ・ラムタル		8	6600	
	学校所在地	(カトマンズ)				
8	生徒名	Azjal Basnet: アズジャル・バスマネット		7	6000	
	学校所在地	(ナレ)				
9	生徒名	Laxmi Tamang: ラクシム・タマン		7	6000	
	学校所在地	(カトマンズ)				
10	生徒名	Nanumya Jirel: ナヌマヤ・ジレル		7	6000	
	学校所在地	ジリ				
11	生徒名	Amish Jirel: アミッシュ・ジレル		8	6600	
	学校所在地	ジリ				
12	生徒名	Jara BK: イサラ・ボネー		6	6000	
	学校所在地	トゥルンブール				
13	生徒名	SANOSH NEPALI: サンディップ・ネパリー		6	6000	
	学校所在地	トゥルンブール				
14	生徒名	Anita Budhatoki: アニタ・ブダトキ		6	6000	
	学校所在地	トゥルンブール				
15	生徒名	Karna Karki: カルナ・カルキ		6	6000	
	学校所在地	ボカラ				
16	生徒名	Binesh Ram Ghama: ビネッシュ・ラム・チャマール		6	6000	
	学校所在地	カトマンズ				
Total					105,000	

6-7 class 1000Rs/month
8 class 1100Rs/month
9 class 1400Rs/month
10 class 1500Rs/month

1st remittance: 1st/Jan
2nd remittance: 1st/Dec

令和5年の一年間に会費、寄付などご協力いただきました方々です。いつもありがとうございます。AASは会員随時登録中です。みなさまのご協力をお願いします。年会費として2千円を頂いております。(会費金額以上のご協力は寄付金とさせていただきます。また、入会金は頂いておりません。)会員登録の方にはAASニュースの継続送付およびネパール視察旅行の参加資格があります。(敬称略)

豊田一雄・菅野照代・工藤隆久・兵藤吉之・河田恵子・鎌谷啓行・大木伸浩・小澤眞一・平尾秀夫・鈴木例・酒井英雄・榎原周造・毛利桂子・荒河麻紀・鈴木清博・林良宣・丸子節子・小崎徹・西満幸・高木正・山本明・伊藤玲子・竹原隆雄・木下美保・沓名智彦・加藤敬造・水野秀彦・室田育代・中沢俊介

ご寄付を頂いた皆さん

小崎徹・平尾秀夫・大木伸浩・小澤眞一・鈴木例・山本明・沓名智彦・室田育代・丸子節子

※ 6月3日に三重県上空の帰国便の窓から、川幅が広がり堤防道路が寸断されている台風一過の川を見ました。翌日は豊川かすみ堤の堤内地被災状況を目に焼き付けました。被災された方々にはお見舞いを申し上げます。来る年は台風被害がない、そして戦争がない穏やかな年でありますように。

AICHI-ASIA-SCHOLARSHIP 愛知・アジア・スカラーシップ
〒440-0862 豊橋市向山大池町 18-15 AAS TEL
080-5293-3400 (中沢) FAX 0532-53-3401
E-mail aas@sala2.dti.ne.jp HP http://www.kkan.net/aas/